

# 平成27年度事業報告

## 概要

世界的な景気減速、特に中国の成長率鈍化は世界経済に大きな影響を及ぼしているが、原油安のおかげで内需拡大が低調でも日本経済はかろうじてマイナスを避けてこられたといえる。政府の掲げる新たな成長戦略「新・三本の矢」（GDP600兆円をめざす強い経済・出生率1.8を目標とする子育て支援・介護離職ゼロをうたう安心社会保障）は、それまでの施策に比べインパクトが弱く、具体的な施策に結びついておらず、今のところ国民経済の大幅な向上には至っていない。原油安はエネルギー関連費用の安値安定として国内経済に大きく寄与しているが、世界情勢の不安定化、産油国の政策変更によりいつまた原油高ひいてはエネルギー関連コストの高騰が引き起こされるかという不安はぬぐいされない。

国内では業種・企業により好調・不調がはっきりと分かれ、それに伴い企業の合併吸収がさらに進む気配がある。合併吸収が進むと企業価値は高まるもののリストラによる不安定雇用者の増加を生み、総体としての可処分所得は低下してゆくと思われる。また少子化の流れは変わらず、高齢化はさらに進み、新たな消費者像が描けず、日銀がかつてない「マイナス金利」を発動してさえも企業の設備投資は一向に上向くことはなかった。日本経済は内需拡大による好循環には程遠くGDPの伸びは低調であった。

多くの健康保険組合など医療保険者においては、後期高齢者支援金の高額な負担と、定年延長による疾病者の増加を見越してか、引き続き疾病予防予算を削減する傾向である。その結果、多くの健康保険組合が、人間ドック受診への補助金の削減や人間ドックを安価な生活習慣病健診に切り替えるといった施策をとっている。また入札制度の導入にみられるような発注者からの値下げ圧力や、多くの健康保険組合からなる集団契約による値下げ要請などが続いている。他方医療機関側は、新規参入・安値競争の動きは一段落したものの、合併や大型機関による吸収・系列化がみられ、前述した入札や値下げ圧力に呼応するための体力勝負の様相を呈している。

当財団としては独立性を保ちながら医療サービスの確保に必要なコスト、ひと・モノに関する財団施設の優位性を粘り強く説明しながら、顧客の維持・新規獲得に奔走した。

かかる状況の中、人間ドック・健康診断については、年度内に増減はあったものの東都クリニック、霞が関ビル診療所ともに最終的には前年対比増を勝ち取ることができた。財団は、前年度に引き続き、平成27年度も設立目的である『労働者の疾病予防および健康の保持増進』を中心に据え、すべての人の保健と福祉に寄与すべく積極的に活動した。また、組織的には理事会、評議員会、事務局を中心に、平成27年度事業計画に基づき、以下の事業について、既存事業の充実と新規事業の具体化、より信頼される体制作りを行った。

- I. 健康診断事業
- II. 健康指導
- III. 診療事業（収益事業）
- IV. 衛生思想の普及啓発（各種講習会・講演会・研究会等の開催、広報活動）
- V. コンピューターシステムの推進、施設・設備等の整備
- VI. 精度管理
- VII. 会議

## I. 健康診断事業

### 1. 健康診断

事業主・労働者に対し、労働安全衛生法の意義・遵守の必要性と、疾病の早期発見の重要性などについて宣伝普及に努め、各種健康診断の実施と健診結果の活用を訴えた。特に健康診断受診率の向上と、生活習慣病予防のための健康診断導入を勧奨した。

東都クリニックにおいては定期健診・生活習慣病健診ともに増加をみたものの、霞が関ビル診療所実施分と巡回健診において定期健診・生活習慣病健診が減少した。ただし、霞が関ビル診療所における雇入れ時健診・航空身体検査の増加により健康診断総体としては受診増が確保できた。二次検査については、再検査・精密検査等二次検査を事業主負担でなく本人の負担で行なう（保険診療で行う）流れが決定的となっており、再検査を保険診療で受け入れているため、今後も二次検査として計上することは意義が薄くなってきている。

なお、複数の健保組合の集合契約による健康診断（東振協）や代行機関と呼ばれる健診仲介者（イーウェル、バリューHR、ここカラダ等）による健診が従来の健保・企業の一定の規模を占める流れは変わらず、今後も注意が必要である。

健診種別	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
定期	19,710	18,220	16,330
生活習慣病	12,912	13,655	13,749
主婦（ファミリー含）	141	136	139
雇入れ時	3,670	2,427	2,276
海外渡航時	917	883	851
V D T ・ 特殊	1,551	1,209	973
特定健診	203	220	226
二次検査	716	921	764
その他（単科健診）	3,013	3,287	3,817
航空身体検査	6,078	5,891	3,699
各種予防接種	4,731	5,028	4,908
合計	53,642	51,877	47,732

### 2. 中小企業巡回特殊健康診断

就労者の高齢化、業務縮小など懸念材料もあるが、前年並みを確保した。

健診項目・内容			平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
中小企業 巡回特殊 健康診断	東京	有機溶剤	76	76	91
	茨城	振動	8	10	11
		有機溶剤	10	10	10
合計			94	96	112

### 3. 人間ドック

健保組合・企業を対象に、疾病の早期発見・健康教育としての人間ドックの先進性、専門性さらにはアメニティを訴え、利用者の増加を目指した。健康保険組合財政の悪化によるドック制度見直し（年齢引き上げや補助額削減など）はあったものの、医療サービスの確保に必要なコスト、ひと・モノに関する財団施設の優位性を粘り強く説

明しながら、顧客の維持・新規獲得を成し遂げた。また、高額ドックであるスーパードックプレミアムは中国人旅行者の受注が特に増加した。

健 診 種 別	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
半 日	20,158	19,818	19,663
宿 泊	146	159	176
スーパー／プレミアム	377	331	337
脳	368	286	385
そ の 他 専 門	23	36	57
合 計	21,072	20,569	20,618

## II. 健康指導

### 1. 当日結果説明の充実

引き続き東都クリニックの血液検査施設により、霞が関ビル診療所も含め、人間ドック受診時の医師による当日検査結果説明が受診者・契約先には好評である。今後もしピーターの増加、健康教育としての人間ドックの利点の宣伝に奏功するものと期待される。

### 2. 保健指導室の活動

引き続き禁煙外来のフォローを行なった。特定保健指導については従来通り東都クリニック、霞が関ビル診療所両施設において実施している。また健診受診後の受診者への聞き取り調査・受診勧奨（後追い調査）は、健康意識の向上と再検査および精密検査での施設利用（保険診療）に一定の寄与をしている。

内容	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
後追い調査	1,458	1,529	1,605
特定保健指導（積極的支援）	61	76	64
特定保健指導（動機付け支援）	55	88	57
合 計	1,574	1,693	1,726

## III. 診療事業（収益事業）

再検査や精密検査あるいは治療等の医療的措置が必要となった利用者のため、充実した医療体制を維持した。粒子線がん相談クリニックにおいても、がん治療のセカンドオピニオン外来として実績を積み重ねている。

年度	平成 27 年度			平成 26 年度			平成 25 年度		
	新患者	再診	合計	新患者	再診	合計	新患者	再診	合計
霞が関	4,904	21,780	26,684	4,921	21,857	26,778	5,087	21,165	26,252
東 都	4,178	28,772	32,950	3,908	26,773	30,681	4,061	26,632	30,693
粒子線	235	122	357	412	134	546	297	82	379
合 計	9,317	50,674	59,991	9,241	48,764	58,005	9,445	47,879	57,324

## IV. 衛生思想の普及啓発、各種講習会、講演会、研究会等の開催、広報活動

労働者の高齢化や生活習慣・労働環境の変化、学会・厚生労働省での論議を踏まえ、最新の労働衛生思想の普及と啓発に努めた。

### 1. 産業保健活動

1) 財団所属の労働衛生コンサルタントおよび認定産業医により、多くの事業場において衛生管理、衛生指導、衛生教育を実施した。特に指針「過重労働による健康障害防止のための総合対策」に基づく職場における精神衛生管理の実践として、契約産業医が事業場担当者、健康管理室等と連携し、労働者のストレス障害の防止に努めた。問診票などにより要面談となった労働者には契約事業場、東都クリニック、霞が関ビル診療所において専門医師の面接、指導を実施した。

2) 平成20年度から開始された特定保健指導に関して、財団所属の産業医が適時保健指導室への指導を行い優良な組織を保つことができた。また、特定保健指導以外の事業場との契約による保健指導も一定の成果をあげている。なお今年度は事業場に出向いての保健指導活動の実績はなかった。

また、産業医活動においては、財団所属の労働衛生コンサルタントおよび認定産業医の不足により事業所の需要とギャップが生じている。今後も顧客の繋ぎとめのためにも産業医の確保は重要である。なお平成27年12月より施行されたストレスチェック制度については平成27年度中の目立った動きは見られず、具体的な動きは平成28年度に持ち越されることとなった。産業医契約、業務について見直しが必要になると思われる。

### 2. 講習会・講演会・研究会等の開催

5月20日 東都クリニック AED、心肺蘇生法講習会

8月27日 霞が関ビル診療所 インフルエンザ講習会

9月30日 東都クリニック インフルエンザ講習会

3月18日 第47回健康医学研究会総会・懇親会 ホテルニューオータニ

### 3. 広報活動

3月18日 「健康医学」第46号発刊

その他渉外活動やホームページを通じて、産業衛生や労働保健等に係わる情報提供を発信している。(健康医学協会ホームページの URL <http://www.kenkoigaku.or.jp/>)

### 4. 学会発表

1) 第58回 日本糖尿病学会 年次学術集会

平成27年5月20日から5月23日

会場： 海峽メッセ下関、下関市生涯学習プラザ他

演題： 「DPP-4 阻害薬投与に関する大規模実態調査研究」

演者： 医師 服部 幸子

2) 第56回 日本人間ドック学会 学術大会

平成27年7月30日から7月31日

会場： パシフィコ横浜

演題： 「頸動脈エコー所見と関連のある因子の検討」

演者： 医師 勝木 美佐子、野本 一臣、上野 由起子、今井 道代、中村 雄二

3) 第37回 心筋生検研究会

平成27年12月11日

会場： 神戸国際会議場

演題： 「心筋生検研究発表」

演者： 医師 大川 眞一郎

5. その他の会議・協議会などへの参加

1) 公益社団法人全国労働衛生団体連合会（全衛連）

6月15日 平成27年度総会・記念講演 ホテルJALシティ田町

10月 5日 第1回東京地区協議会・特別講演 東京産業保健総合支援センター

11月 2日 運営研究会・講演会 ホテルニューオータニ高岡

11月19日 関東地方協議会 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

3月24日 第2回東京地区協議会・特別講演 東京産業保健総合支援センター

2) 東京都産業保健健康診断機関連絡協議会（都産健協）

4月23日 定期総会 電設会館

2月25日 研修会参加 後樂園飯店

3) 一般社団法人労働保健協会（労働保健協会）

6月26日 定期総会 リヴィエラ東京

12月12日 研修会 朝日生命大手町ビル

4) その他への参加

4月18日 OZAK会 新人研修会 幕張国際研修センター

5月11日 麹町法人会ビジネス交流会 ホテルグランドパレス

8月 6日 保健師・看護師等研修会(労働衛生コース) 東京三田 NN ホール

9月16日 全国健康増進協議会講演会「今後の健康管理を考える」

9月21日 第20回糖尿病教育看護学会学術集会 かがわ国際会議場

10月 4日 第24回OZAK会学術集会 幕張国際研修センター

10月 5日 病態栄養講習 東京医科歯科大学 医学科講義室

11月25日 産業保健フォーラム IN TOKYO 2015 運営協力 ティアラこうとう

11月27日 (一社)東京都総合組合保健施設振興協会（東振協）懇親会  
第一ホテル両国

1月19日 ストレスチェック面接医師研修会 東京三田 NN ホール

2月26日 (一社)日本健康倶楽部セミナー 浜離宮ホール

3月28日 診療報酬改定講習会 関東信越厚生局 東京事務所

## V. コンピューターシステムの推進、施設・設備等の整備

### 1. コンピューターシステム

一昨年東都クリニック、霞が関ビル診療所に導入された電子カルテシステムは順調に稼働し正確で効率的な運用に欠かせないものとなり、適切な医療情報の提供、診察・会計待ち時間の短縮、医療事故防止対策に効果をあげている。

また、人間ドック・健診業務においては引き続き企業団体ごとのWEB予約画面作成などを始めとしてインターネットを通じた集客に注力した。さらに大規模顧客からの予約情報の入力や、特定健康診査・特定保健指導時のXMLデータ作成、事業所・健保からの要請に基づくカスタムデータ作成などきめ細かいサービスを行うと同時に効率化を図った。

### 2. 施設、設備等の整備

充実した施設、設備の医療体制を維持した。

- 1) 東都クリニック、霞が関ビル診療所ともに内視鏡検査の充実拡大を行った。
- 2) 粒子線がん相談クリニックとの連携を高め、特に外国人旅行者の東都クリニック受診後のがん治療の受け皿としての機能を宣伝した。
- 3) 保健指導室において、特定健康診査・特定保健指導の推進および人間ドック実施後の後追い調査、二次検査受診勧奨、産業衛生研究などを行なった。

## VI. 精度管理

検査データ・判定の正確性のために、精度管理の維持・向上を目指し、内外を問わず精度管理事業への積極的な参加と改善を行った。

### 1. 機能評価施設認定

今年度は労働衛生サービス機能評価（全衛連）、日本人間ドック学会認定はなし

### 2. 精度管理事業への参加

平成27年度全衛連総合精度管理調査の結果

- 1) 労働衛生検査に関する精度管理調査（鉛又は有機溶剤）※外注  
東都クリニック 施設評価【優】  
霞が関ビル診療所 施設評価【優】
- 2) 臨床検査に関する精度管理調査 [生化学検査(12項目), 血液学的検査(6項目), 尿検査(3項目)]  
東都クリニック 施設評価【優】  
霞が関ビル診療所 施設評価【優】
- 3) 胸部エックス線検査に関する精度管理調査  
東都クリニック 施設評価【良】  
霞が関ビル診療所 施設評価【良】
- 4) 腹部超音波検査に関する精度管理調査（日本人間ドック学会による）  
東都クリニック 施設評価【優】  
霞が関ビル診療所 施設評価【優】

## Ⅶ. 会議

下記日程で開催した。

### 1. 定例理事会

日時 平成27年5月26日(火)  
場所 東京都千代田区紀尾井町4-1 新紀尾井町ビル7階  
議案 第1号議案 評議員会の開催日程及び議案(案)に関する件  
第2号議案 平成26年度 事業報告に関する件  
第3号議案 平成26年度 決算、監事監査に関する件  
第4号議案 公益目的支出計画実施報告書承認の件  
第5号議案 その他に関する件

日時 平成28年3月18日(金)  
場所 東京都千代田区紀尾井町4-1 ホテルニューオータニ『翔の間』  
議案 第1号議案 評議員会の日時及び場所、議案について  
第2号議案 平成28年度事業計画承認に関する件  
第3号議案 平成28年度収支計画承認に関する件  
第4号議案 その他に関する件

### 2. 定例評議員会

日時 平成27年5月26日(火)  
場所 東京都千代田区紀尾井町4-1 新紀尾井町ビル7階  
議案 第1号議案 平成26年度 事業報告に関する件  
第2号議案 平成26年度 決算、監事監査に関する件  
第3号議案 公益目的支出計画実施報告書承認の件  
第4号議案 その他に関する件

日時 平成28年3月18日(金)  
場所 東京都千代田区紀尾井町4-1 ホテルニューオータニ『翔の間』  
議案 第1号議案 平成28年度事業計画承認に関する件  
第2号議案 平成28年度収支計画承認に関する件  
第3号議案 その他に関する件